～住まいと健康の関係性を考えてみませんか～

青森県 健やか住宅 推進プロジェクト

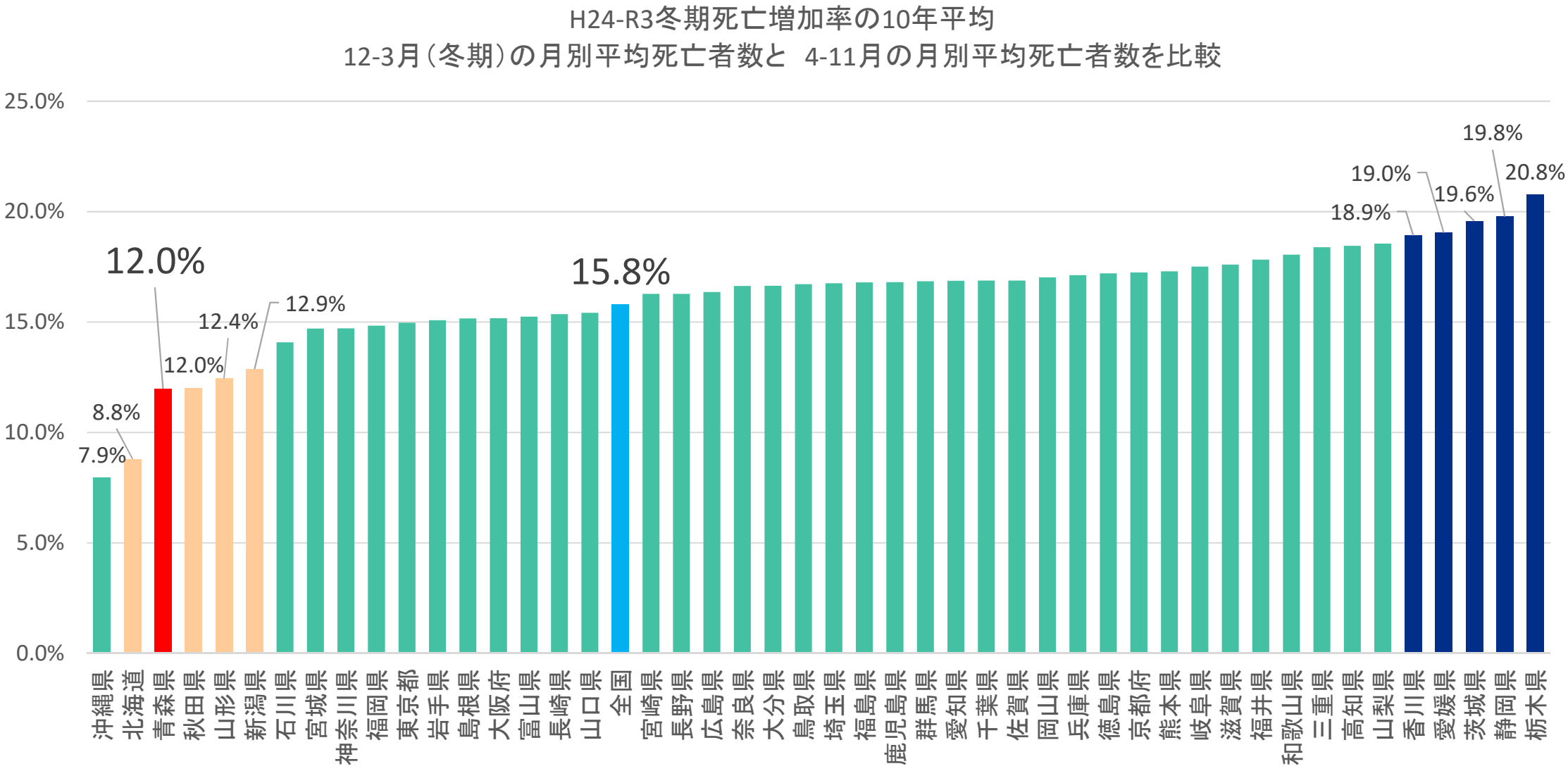
青森県 県土整備部 建築住宅課
住宅企画グループ　主幹　石岡　伸吉

冬もあたたか
健やか住宅

青森県 健やか住宅推進プロジェクト

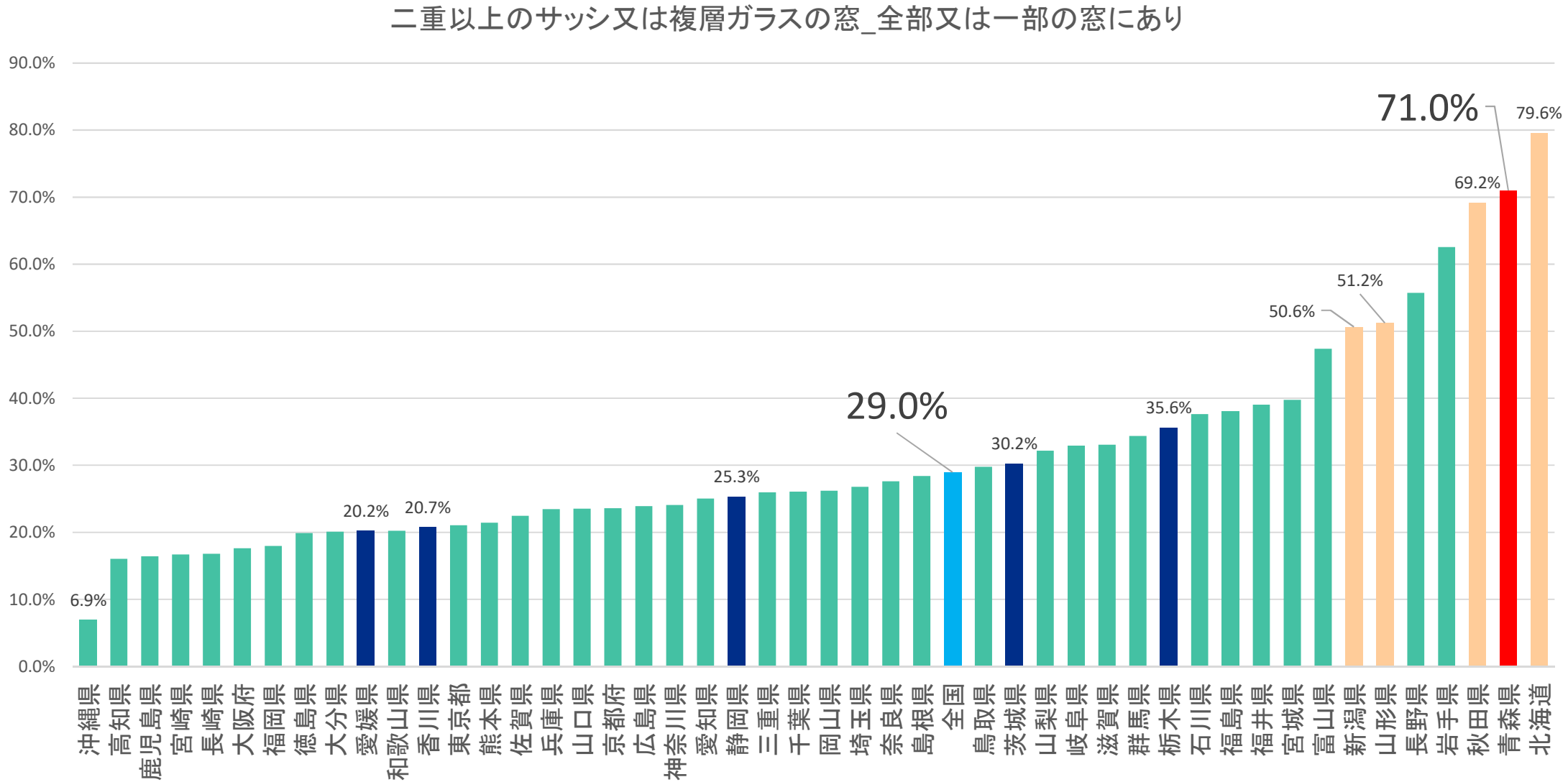
都道府県別の冬期死亡者増加率の10年平均（2012-2021）

☑冬に死亡者数が増えますが、地域より増加率に差があります。



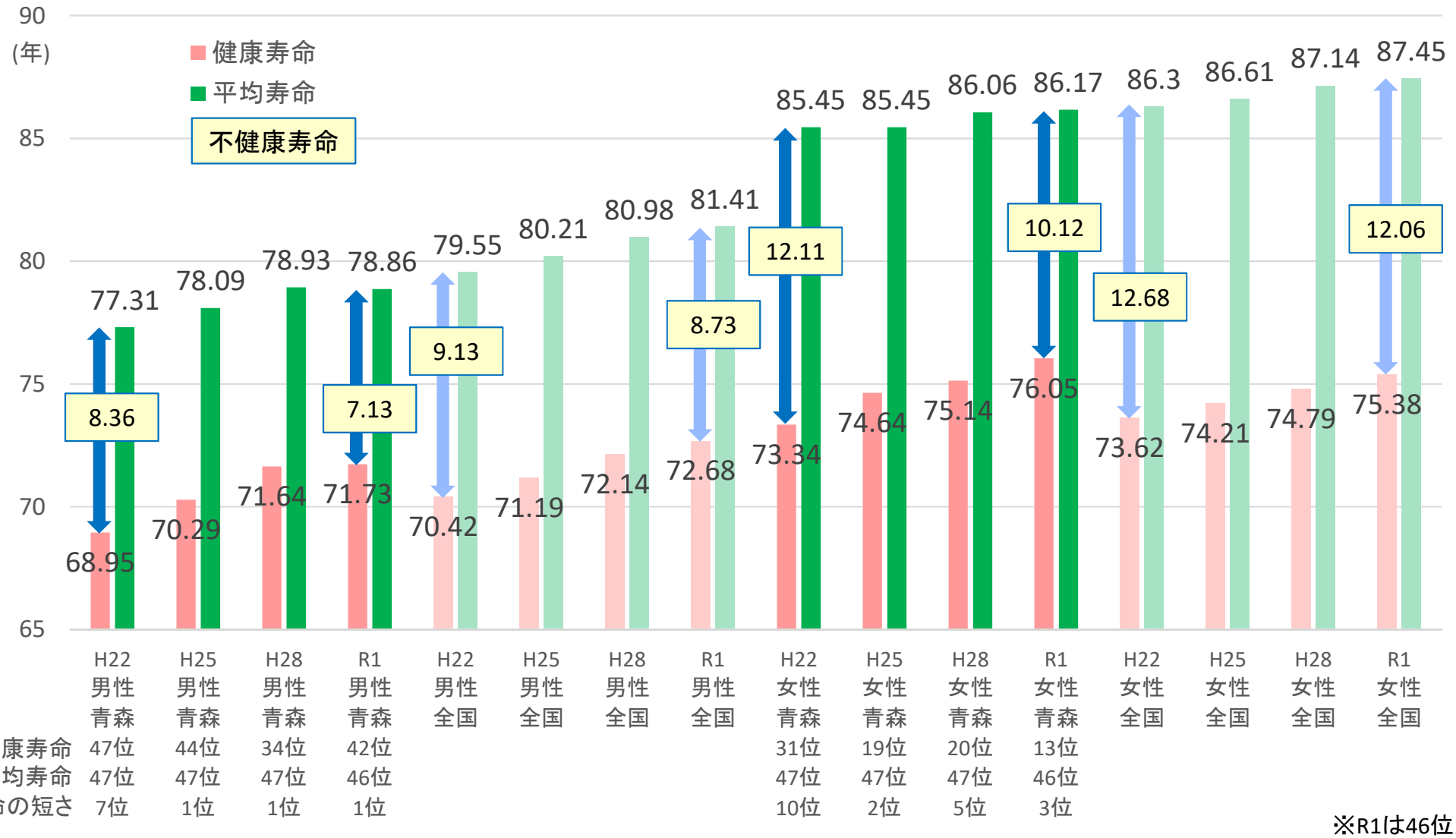
都道府県別　一定の断熱性能がある住宅の割合

☑統計上、一定の断熱性能がある住宅の割合は北国が高いです。



平均寿命と健康寿命

男性は短めな健康寿命・男女とも最下位の健康寿命・不健康寿命は短いが改善

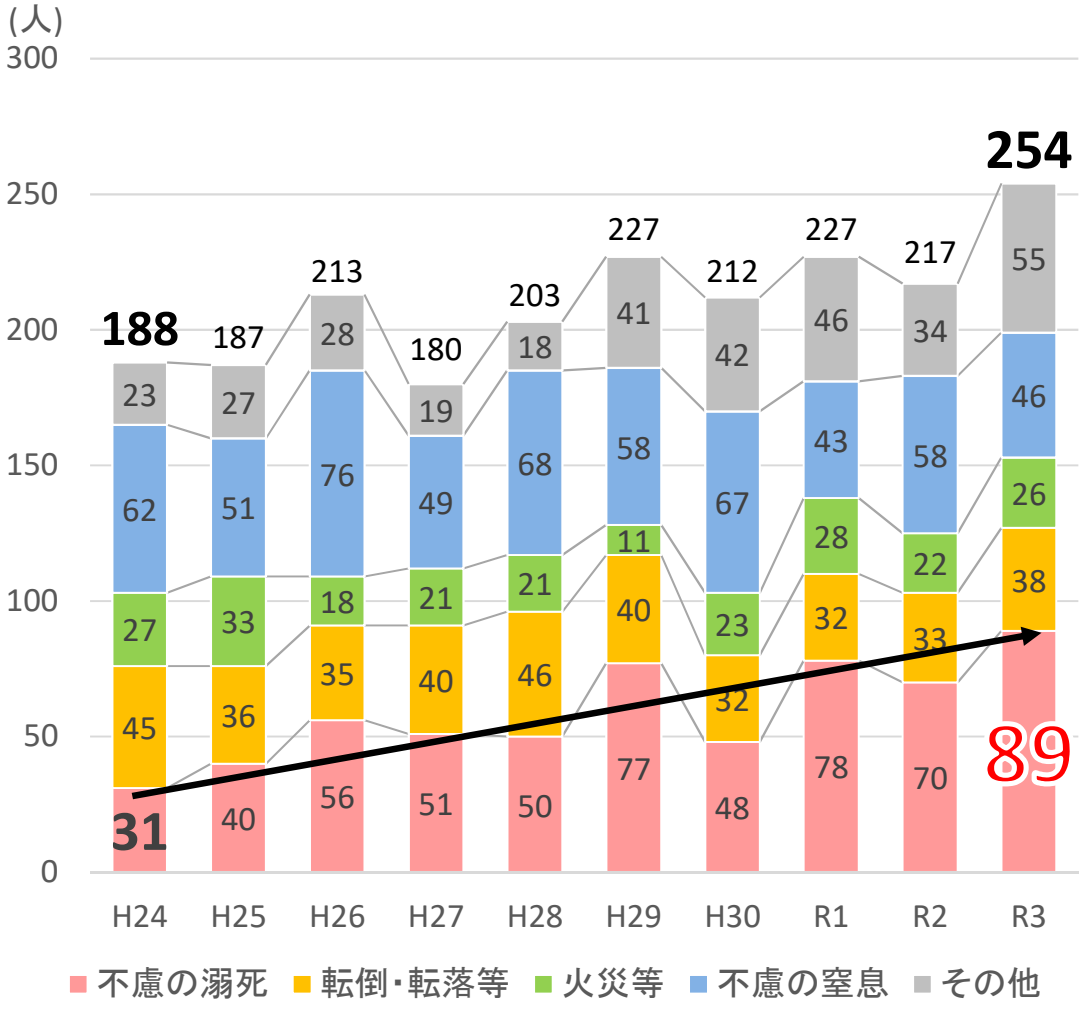


※R1は46位が最下位

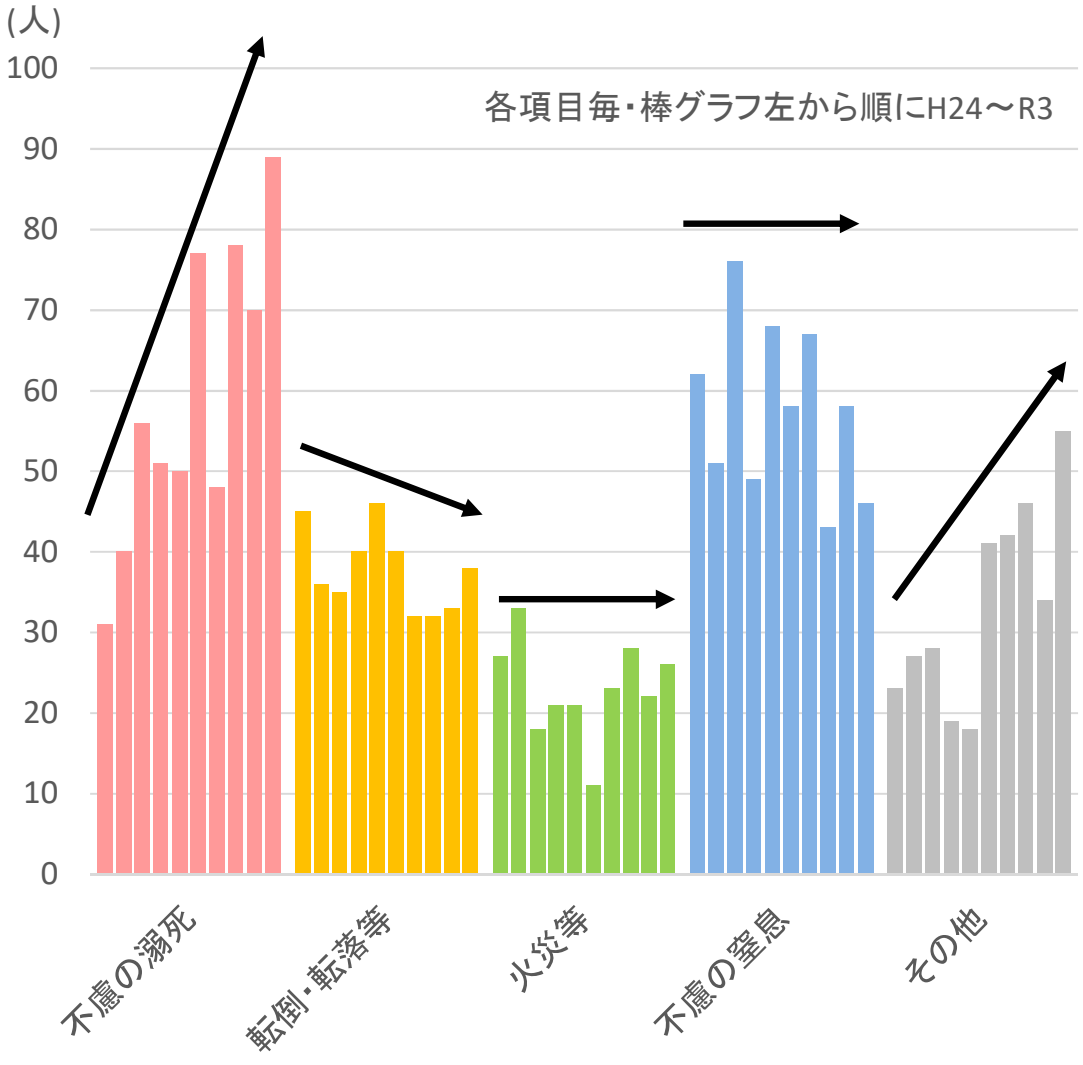
データ出典：厚生労働省「健康寿命の令和元年値について」

家庭内での事故死者数(H24～R3)

家庭内での不慮の事故死者数(H24～R3)

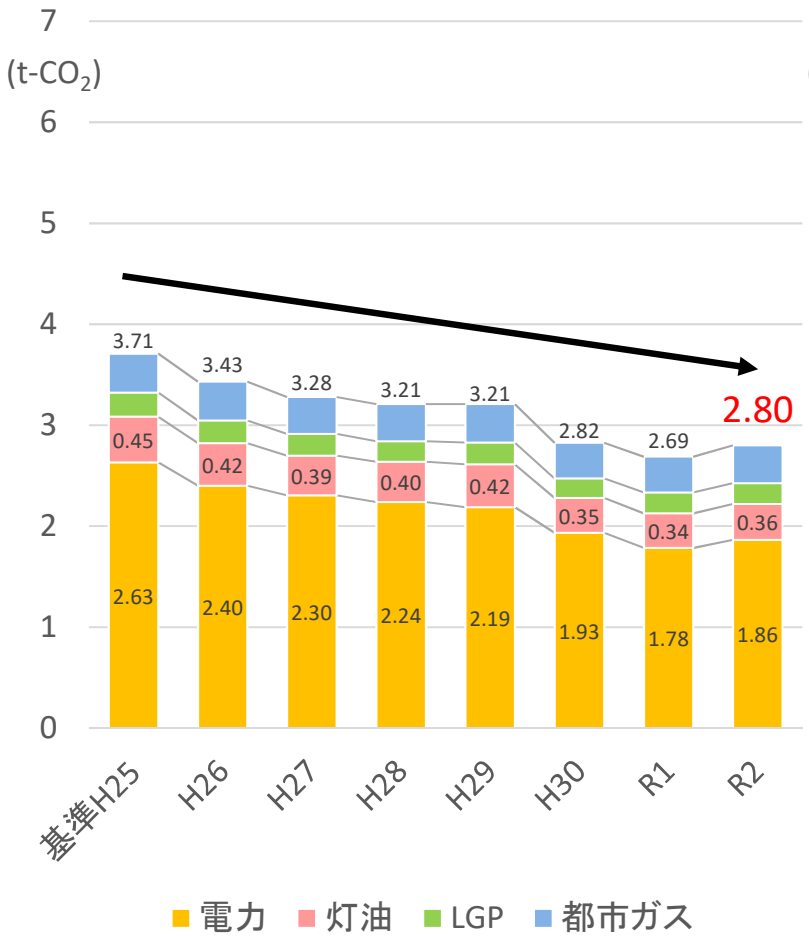


同左-原因別(H24～R3)

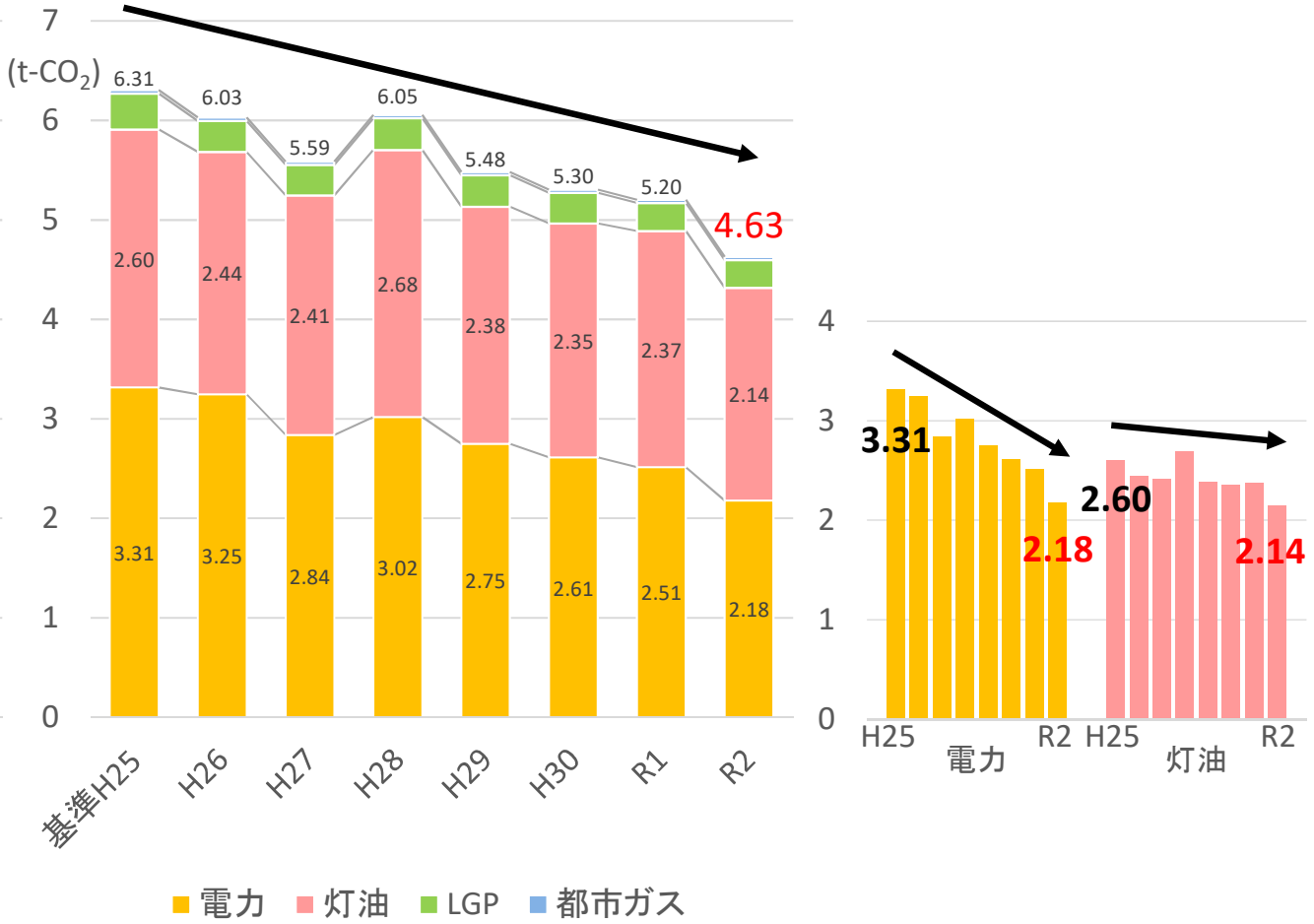


家庭部門の温室効果ガス排出量

全国>家庭部門>世帯当たり>tCO2排出量



青森県>家庭部門>世帯当たり>tCO2排出量



左グラフ:「国立環境研究所温室効果ガスインベントリオフィスのデータ(日本の温室効果ガス排出量データ(1990～2021年度)確報値」をもとに作成
右グラフ:出典:青森県における温室効果ガス排出状況について【2020年度(令和2年度の実績)】

建築事業者との意見交換から、福祉・健康分野との連携

<R1～R2>　建築事業者との「いのちを守るリフォーム」WG

・工務店が説明しても、断熱で稼ぐ怪しいリフォーム業者と思われてしまう。
・ついでの断熱・気密リフォームを提案しても、断熱の効果が良く分からないと言われ断られる。
・消費者は、家が寒いことは「体にこたえる」と自覚しているが、慣れてしまっている。
・住まいの温熱環境が健康に影響を与えることを、ほとんどの消費者は知らない。
・消費者は、断熱≒省エネ　断熱≠健康　断熱工事をしても、暖房を弱くするので寒さ変わらず。
・県民への周知内容に対応した行政の補助事業があれば、消費者に話しやすい。
・健康に関する話題を知ってもらうために、**福祉・健康分野との連携**が必須である。

<R3>　「健やか住宅」と命名・福祉分野連携

「健やか住宅」　少なくとも居間・台所・寝室・洗面・風呂・トイレ・これらを結ぶ廊下等の冬期室温18℃以上を目指す住宅

・あくまでも「暖かい住まいは、皆さんもご存知のとおり、良いですよ。」の理念
・住まい方、使い方、暖房の強弱などにも左右されるため、技術基準は決めない

冬もあたたか
健やか住宅

青森県 健やか住宅推進プロジェクト

福祉関係者・福祉部局との連携 ・ WG開催

WGメンバー

共に考え
取り組む

◆弘前WGメンバー
- 弘前建築組合
- 弘前建設業協会
- 弘前市社会福祉協議会
- 弘前市（建築住宅課、建築指導課、健康増進課、高齢福祉課）

◆中泊メンバー
- 中泊町建築業協会
- 中泊町社会福祉協議会
- 中泊町地域包括支援センター
- 中泊町（総合戦略課、環境整備課、町民課）

◆共通メンバー
- 青森県住宅リフォーム推進協議会（建築士会）
- 青森県社会福祉協議会
- 青森県居住支援協議会（宅建協会）
- 青森県（建築住宅課、がん・生活習慣病対策課、＜R5より＞環境政策課）

（当初の課題）
断熱性能がない家で生活をしている人に、住まいと健康の関係を知ってもらって、既存住宅の断熱化リフォームをしてほしい。

冬もあたたか
健やか住宅

青森県 健やか住宅推進プロジェクト

WG　ケースワーカーからの発言

高齢者ほど古い我が家で、
寒さを我慢することに慣れてしまっている

かみくだくと

高齢者ほど古い我が家で、

高齢になるにつれ、環境を変えること・新しいことにストレスを感じ、お金の心配も強くなる。そのため、今の場所で、今のまま住まいで、何も変わらず暮らし続けたい。

寒さを我慢することに慣れてしまっている

冬は家の中も寒いのが当然、これまで過ごしてきて特に問題はない。トイレはコートを着ていくし、冬は銭湯に行く。灯油代は高くなったので暖房を少し弱めにして着込めば大丈夫。雪かきをすると暑くなるし、廊下が冷蔵庫代わりに使えるので便利。

<R3> WGでの意見

福祉分野から

・住まいの温熱環境が健康に影響を与えることを初めて知った。
・住宅は専門外なので、高齢者や健康に関心がある人への、伝え方が分からない。
・高齢者ほど、古く・広く・冬寒く・夏暑い住み慣れた我が家で、我慢に慣れて暮らしている。

周知への意見

・興味を持ちやすい血圧の話題をメインとして、様々な場面で、保健師やケアマネジャー、高齢者の息子世代に周知を図る。
・対象は35～70歳くらいだが、メインはやはり50～60歳。話題がぼやけないよう工夫が必要。
・高齢者には、あたたかな住まいは良いことを知ってもらうことに重点を置く。
・住宅事業者と福祉関係者の両方から同じ話を聞くことが、効果的と思われる。
・リフォーム費用と効果を見せることが重要である。

まず多くの人に知ってもらうことが重要　幅広い年代・属性に向けて、発信していこう！

R4 情 報 発 信

冬もあたたか
健やか住宅

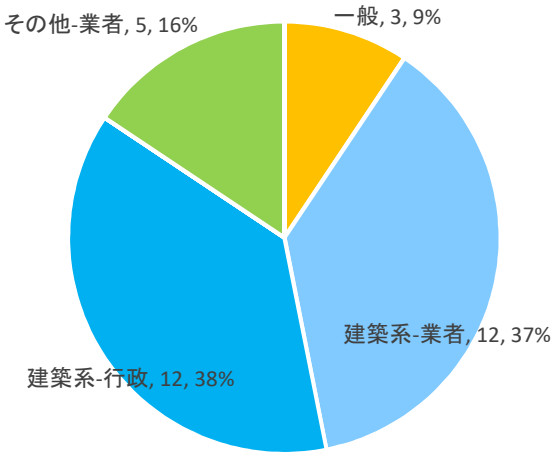
青森県 健やか住宅推進プロジェクト

セミナー実施状況

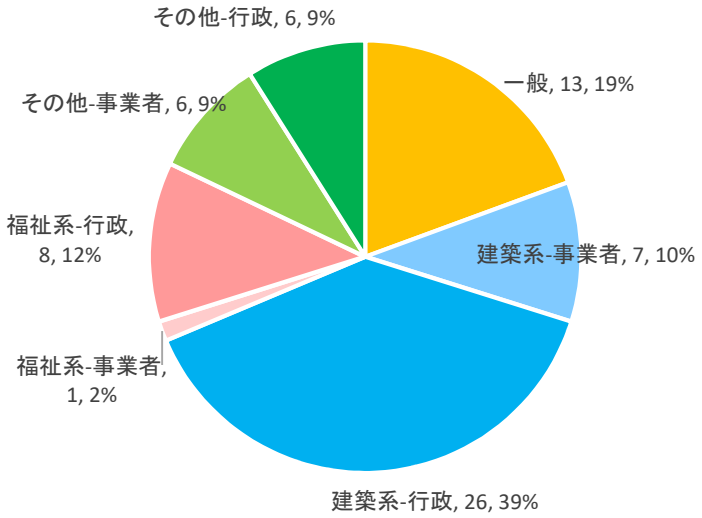
参　加　者

	事前申込 (a)	欠席 (b)	出席 (c=a-b)	当日申込 (d)	参加者 (e=c+d)
中泊(R4.11.6)	-	-	-	-	約130名
八戸(R4.12.15)	33名	6名	27名	5名	32名
弘前(R5.1.30)	75名	12名	63名	4名	67名
	108名	18名	90名	9名	約230名

八戸 - 参加者の属性



弘前 - 参加者の属性



セミナー実施状況　中泊会場

なかどまり暮らしと健康セミナー
　あたたかな住まいで健康に素敵に暮らしてみませんか

◆日　時　R4.11.6(日)　14:00～15:30
◆場　所　中泊町総合文化センター「パルナス」ホール
◆出席者　町民等　約130名
◆その他　①なかどまり町民文化祭にて開催
　②翌R4.11.7付け東奥日報に記事掲載
　　健康と住環境考える
　　中泊で県セミナー　暖かさ重要

◆次　第
・あいさつ
　中泊町　濱舘 豊光 町長
・基調講演　あたたかな住まいが高齢者から幼児までの健康を支える
　慶應義塾大学　伊香賀 俊治 教授
・パネルディスカッション　あたたかな住まいとあおもり暮らし
　パネラー　慶應義塾大学　伊香賀 俊治 教授
　　中泊町　濱舘 豊光 町長
　コーディネーター　八戸高等技術専門学校　馬渡 龍 准教授

あいさつ　濱舘 豊光 中泊町長

基調講演　伊香 賀俊治 教授

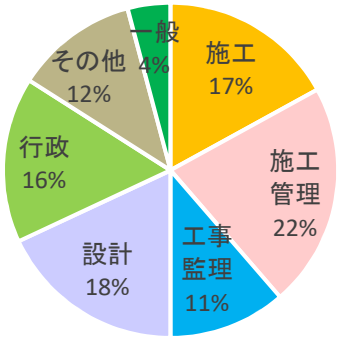
パネルディスカッション
パネラー　伊香賀 俊治 教授
　　濱舘 豊光 中泊町長
コーディネーター　馬渡 龍 准教授

講習会実施状況

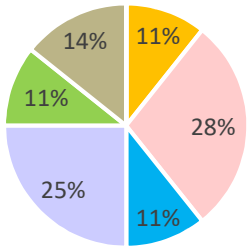
参　加　者

	事前申込 (a)	欠席 (b)	出席 (c=a-b)	当日申込 (d)	参加者 (e=c+d)	CPD単位取得者
八戸(R4.12.15)	28名	3名	25名	2名	27名	9名
むつ(R4.12.21)	15名	1名	14名	3名	17名	1名
十和田(R5.1.12)	49名	15名	34名	2名	36名	7名
弘前(R5.1.19)	50名	9名	41名	1名	42名	2名
青森(R5.2.9)	36名	14名	22名	3名	25名	8名
中泊(R5.2.16)	20名	0名	20名	2名	22名	0名
	198名	42名	156名	13名	169名	27名

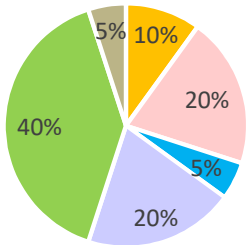
全体 - 参加者の属性



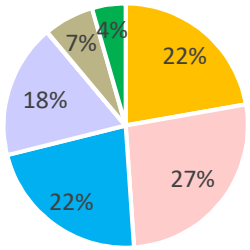
八戸 - 参加者の属性



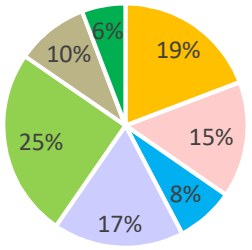
むつ - 参加者の属性



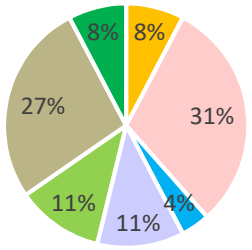
十和田 - 参加者の属性



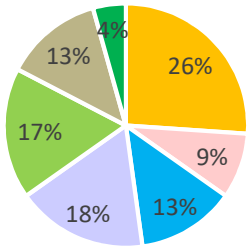
弘前 - 参加者の属性



青森 - 参加者の属性



中泊 - 参加者の属性



講習会実施状況　弘前会場

事業者向け
　住宅用断熱材の施工実演講習会

◆日　時　R5.1.19(木)　13:30～15:30
◆場　所　弘前市民会館　大会議室
◆出席者　事業者26名・行政13名・一般3名　計42名

◆次　第
・情報提供　あたたかな住まいと健康について
　青森県 県土整備部 建築住宅課　課長代理 木村 博隆
・座学
　平野商事株式会社　代表取締役副社長
　一般社団法人新木造住宅技術研究協議会理事　平野 公彦 氏
・実演
　小松工務店　代表 小松 則雄 氏

情報提供　建築住宅課

座学　平野 公彦 氏

実演　小松 則雄 氏

住まいと健康の関係性　周知実施状況(1/3)

公益財団法人青森県宅地建物取引業協会 役職員研修会

◆日　時　R4.11.11(金)　16:00～16:45（内25分）
◆場　所　津軽南田温泉ホテルアップルランド
◆主　催　公益財団法人青森県宅地建物取引業協会
◆出席者　協会員38名
◆内　容　「あたたかな住まいと健康について」
　　青森県 県土整備部 建築住宅課　主査 石岡 伸吉

講演の様子

岩木地区健康づくりサポーター協議会 研修会

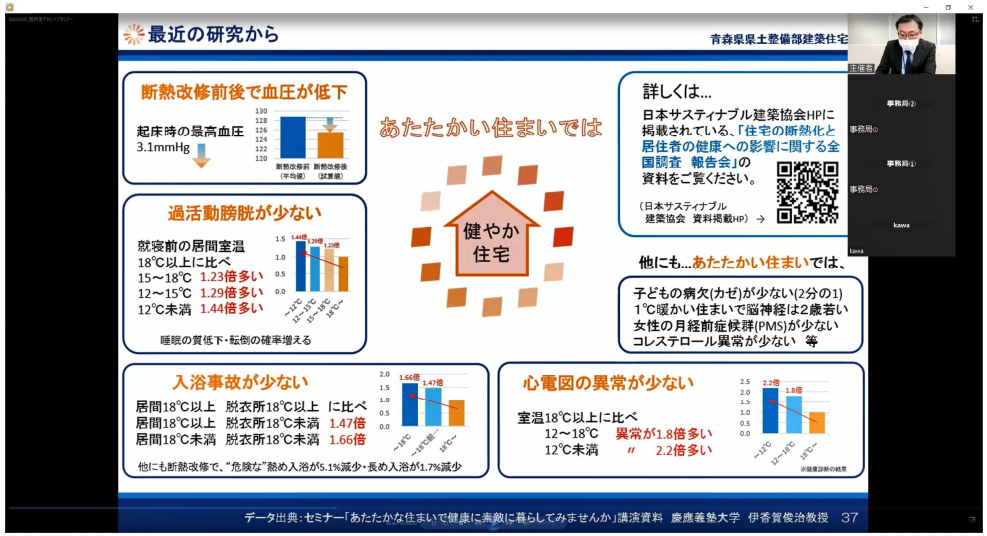
◆日　時　R5.1.28(土)　13:30～15:00
◆場　所　岩木保健福祉センター ２階 研修室
◆主　催　弘前市岩木地区健康づくりサポーター協議会
◆出席者　地区住民等17名
◆内　容　「住まいと健康の関係性について」
　　青森県 県土整備部 建築住宅課　主査 石岡 伸吉

講演の様子

住まいと健康の関係性　周知実施状況(2/3)

脱炭素チャレンジ促進セミナー

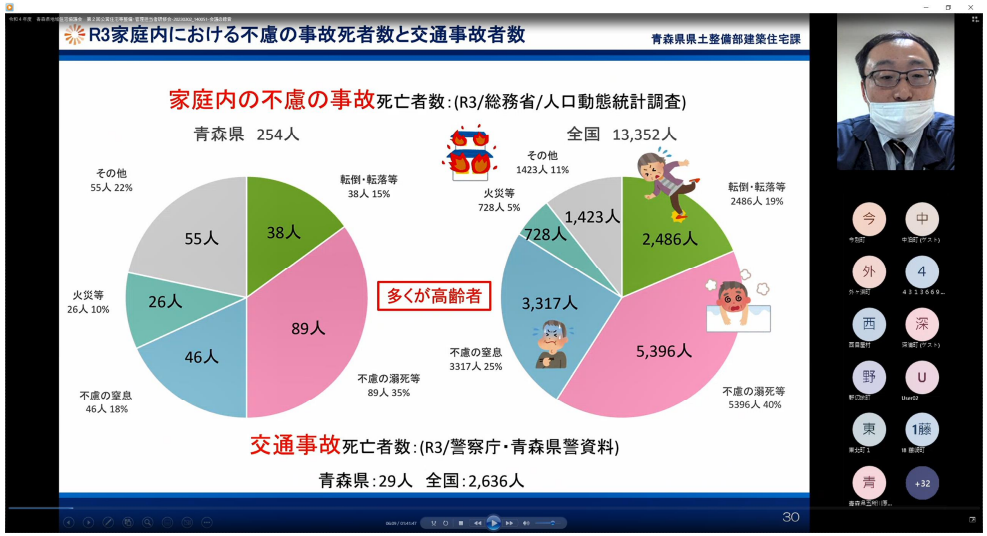
◆日　時　R5.2.22(水)　13:00～15:10（内10分）
◆場　所　WEB開催
◆主　催　青森県 環境生活部 環境政策課
◆出席者　事業者等37名
◆内　容　「省エネで健康寿命の延伸にも
つながるあたたかな住まい」
青森県 県土整備部 建築住宅課　主査 石岡 伸吉



講演の様子

令和４年度第２回青森県地域住宅協議会研修会

◆日　時　R5.3.2(木)　13:00～15:30（内15分）
◆場　所　WEB開催
◆主　催　青森県地域住宅協議会
◆出席者　市町村職員等54名
◆内　容　「健康寿命の延伸にもつながる
あたたかな住まい」
青森県 県土整備部 建築住宅課　主査 石岡 伸吉

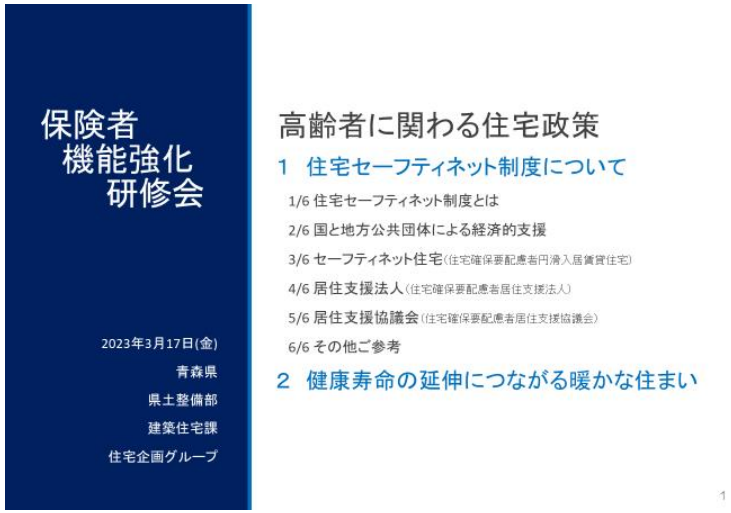


講演の様子

住まいと健康の関係性　周知実施状況(3/3)

保険者機能強化研修会

◆日　時　R5.3.17(金)　9:00～12:00（内20分）
◆場　所　WEB開催
◆主　催　青森県 健康福祉部 高齢福祉保険課
◆出席者　32市町村 職員54名
◆内　容　「健康寿命の延伸につながる
あたたかな住まい」
青森県 県土整備部 建築住宅課　主査 石岡 伸吉



講演資料

すまい職人きらりアップ体験出前授業

◆日　時　R4.7～12月　各10分
◆場　所　小学校３校・中学校５校
◆主　催　青森県住宅リフォーム推進協議会
◆出席者　８校延べ３６２名
◆内　容　「住まいの性能」
青森県 県土整備部 建築住宅課　主査 石岡 伸吉

壁の中には何が入っている？

パンフレット類の配布など

保健協力員総会後の研修会　パンフ配布

◆日　時　R4.5.20(金)
◆場　所　WEB開催
◆主　催　青森県 健康福祉部 がん・生活習慣病対策課
◆配　布　保健協力員等493名

令和4年春季建築物防災週間 啓発パネル展　パンフ設置

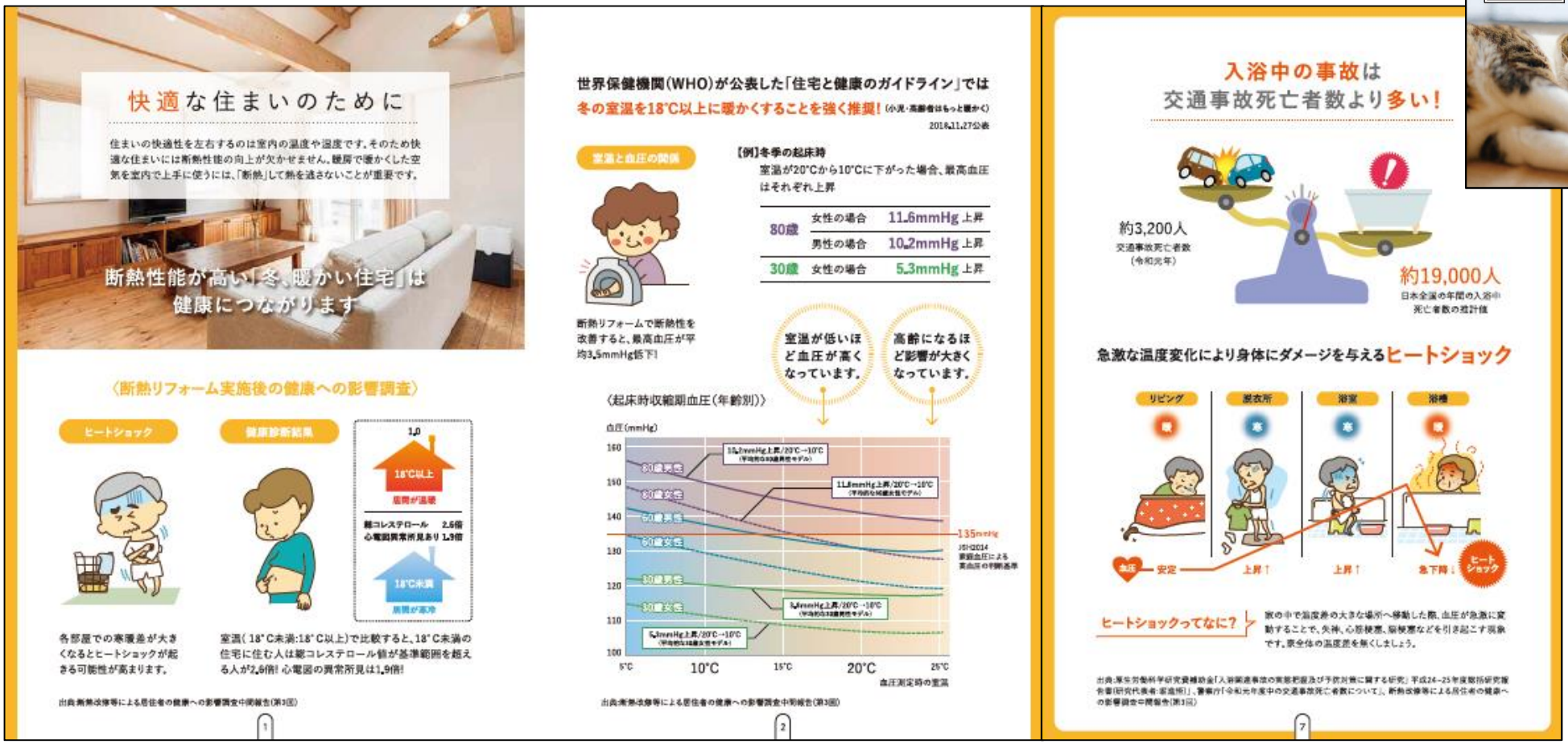
◆日　時　R5.2.27(月)～3.3（金）
◆場　所　県庁舎北棟１階ホール
◆主　催　建築住宅課

大農林水産祭　パンフ配布

◆日　時　R4.11.12（土）～R4.11.13（日）
◆場　所　産業会館
◆出　展　青森県住宅リフォーム推進協議会
◆配　布　一般県民等約１００名

環境政策課　住まいの断熱

R3県内ホームセンター 約3,000部配布
R5 約3,000部　配布予定



環境部局と連携し、住まいの省エネ（家庭部門の温室効果ガス排出抑制）の取組みの一環で、住まいと健康の関係を記載

HP　冊子

R3～R4の活動内容

開催日	イベント名等	参加者		開催地	協力(主催等)
R3.10～12	R3すまい職人きらりアップ 体験出前授業	中学生と教師	約320名	5校	青森県住宅リフォーム推進協議会
R3.10～	青森の冬住まいの断熱BOOK	県内ホームセンターに設置			県環境政策課
R3.11.12	R3市町村リフォーム相談窓口 担当者研修会	市町村職員等	31名	青森市	県建築住宅課
R4.1.19	居住支援セミナー	福祉事業者等	11名	八戸市	日本サンライフ終身身元保証協会 (居住支援法人)
R4.1.20	R3地域包括支援センター基礎研修	地域包括支援センター職員等	69名	Web	県高齢福祉保険課
R4.3.2	居住支援セミナー	不動産事業者・福祉事業者等	41名	Web	青森県居住支援協議会 青森県社会福祉協議会(居住支援法人)
R4.5.20	R4保健協力員総会研修会	保健協力員　※資料配布のみ	493名	Web	県がん・生活習慣病対策課 青森県保健協力員会等連絡協議会 青森県国民健康保険団体連合会
R4.7～12	R4すまい職人きらりアップ 体験出前授業	小・中学生と教師	約360名	8校	青森県住宅リフォーム推進協議会
R4.11.11	県宅建協会 役職員研修会	協会役職員	38名	平川市	青森県宅地建物取引業協会
R4.11.12・13	大農林水産祭	一般県民　※資料配布のみ	約100名	青森市	青森県住宅リフォーム推進協議会
R5.1.28	岩木地区 健康づくりサポーター協議会研修会	地区住民等	17名	弘前市	同協議会
R5.2.22	脱炭素チャレンジセミナー	事業者等	37名	Web	県環境政策課
R5.2.27～3.3	R4年度春季 建築物防災週間 啓発パネル展	一般県民向け		青森市	県建築住宅課
R5.3.2	R4年度 第2回 青森県地域住宅協議会研修会	市町村職員等	54名	Web	青森県地域住宅協議会
R5.3.17	保険者機能強化研修会	市町村職員	61名	Web	県高齢福祉保険課

R4　気づき

冬もあたたか
健やか住宅

青森県 健やか住宅推進プロジェクト

やってみて、一周まわって気づく。

・そもそも、どんな話題であっても、セミナーに参加しようとする県民は少ない。
・断熱リフォームや建替えを薦められても、急にできるわけがない。
・まだまだ、消費者は、断熱性能　＝　冬の省エネである。

気づき①

直接、県民に届けることよりも、
住まいと健康の関係性を知っている人を増やし、再発信してもらう方が効果的

気づき②

リフォームや建替えを薦めるのは、二の次。
住まいと健康の関係性を知って、日々の生活で思い出してもらう方が優先

気づき③

あたたかな住まいの効果として健康をPRする場合、
消費者の興味を引きやすい、省エネの話題と一緒に発信する方が効果的

気づき①②

知っている人を増やし、再発信　　日々の生活で思い出してもらう

・福祉関係者の話は、高齢者や健康に関心がある人は聞く。
・福祉関係者、業界から県民への情報発信を期待。

気づき③

省エネの話題と一緒に発信

・断熱の効果が複数あると（省エネ＋健康）、より関心を引く。
・住宅事業者、業界から県民への情報発信を期待。

やってみて、一周まわって気づく。

当初の方向性

断熱性能がない家で生活をしている人に、住まいと健康の関係を知ってもらって、既存住宅の断熱化リフォームをしてほしい。

ターゲット

まず多くの人に知ってもらうことが重要
幅広い年代・属性に向けて、発信していこう！

現在の方向性

元気で末永く暮らしてほしいので、一人でも多くの人に、断熱・気密性能がある住宅は、健康・省エネに効果があることを知って、日々の生活でふとした瞬間に思い出してほしい。

ターゲット

県民に情報の再発信をできる人にもっと知ってもらうことが重要
住宅事業者ももちろん、特に福祉関係者に向けて、発信していこう！